秋田をつくる建設人

Vol.06

施工管理（土木）

荒川 拓也さん（30代）
田中建設（株）［三種町］
キャリア 20年

目の前のことを着実にこなすことをモットーに、現場管理として働く荒川拓也さん。近年導入されたICT技術の活用に建設業の将来性を感じ、意欲をみせている。苦労することも多いのではないかと聞くと、他業者も含め現場一丸となって新たな試みに挑戦できるのが楽しいとのこと。キャリア21年目にして挑戦を忘れない姿が印象に残った。

仕事の「やりがい」は？

建設業に限ったことではないですが、仕事とは「やるべきことをきっちりやる」、これに尽きます。それでもやはり、規模の大きな工事は責任も大きい分、やりがいもありますし、完成した道路は自分も使うので実感も湧きやすいですね。最近は、測量をドローンで行うなど、ICT技術を活用した工事も増えてきました。アナログ作業に比べて、労力も時間も大幅に効率化され、現場にも余裕が生まれることで、労働環境もさらに良くなっていくと思いますし、建設業の新しい魅力になるのではと期待しています。

印象に残った仕事は何ですか？

最初に責任者として担当した治山工事です。それまでは現場に行けば仕事があったので、それをこなせばよかったのですが、その工事は、施工計画を作って着工するまでの調整が大変だったので印象に残っています。あとは、施工箇所が点在型の工事も苦労することが多いですね。現場の数だけ協議事項があっても、体はひとつですから。経験を重ねた今では、調整ごとも大分スムーズに進められるようになり、工種によって自分なりにプラスアルファの工夫を提案できる余裕も生まれ、仕事が面白いと思えるようになりました。

ICT技術の活用について

今担当している*米代川鶴形地区高水敷整正工事がまさにICTによる施工事例のひとつです。作業効率や測量の精度の面でも大きな手応えを感じています。例えば、これまでやっていた測量による丁張り作業の代わりに、精度の高い3Dデータを使って作業しています。GPSデータのずれなど小さなトラブルもありますが、間違いも少なくなり、確実に工期の短縮につながっています。ソフトウェアの使い方や、建設機械の操作など、ひとつひとつ手探りしている最中ですが、12月の工期完了までにぜひともマスターしたいですね。

キャリアアップ CAREER UP

- 2002年 入社 →
- 2005年（4年目） 2級土木施工管理技士取得 ← 2006年に初めて責任者として三種町谷地ノ沢での治山工事を担当した。
- → 2011年（10年目） 1級土木施工管理技士取得 →
- 2022年（21年目） ← 初めてICT活用工事（i-Construction）に現場管理として関わっている

ココロに残っているプロジェクト

***米代川鶴形地区 高水敷整正工事**
（2022年／国土交通省）

ドローンを使用した起工測量や、クラウド上で管理する3Dデータを活用して進める工事を経験。作業効率や測量精度が格段に向上することを実感。

荒川 拓也さんのもうひとつの物語

親子で晴れの舞台・全国大会へ

8 月は中学 3 年生の息子さんの部活のサポートに明け暮れたという荒川さん。それもそのはず、息子さんは全国ベスト8の成績を収めた強豪バスケット部に所属しているとのこと。「全国大会で北海道に行きました。コロナ禍が続くなか、久しぶりに堂々と試合ができて、子どもたちにとっても良かったんじゃないかな」と、少し誇らしげに写真を見せてくれた。親子で一緒に迎えた晴れ舞台、今夏の最高の思い出になったようだ。